

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

18

マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 67 インストルメントパネルを組み立てる

今号は、実車の写真を参考にしながら、インストルメントパネルに各種のボタンやスイッチ、パネルを取り付け、ラベルを貼るなどして、ディテールを再現していく。さらに、メインボディにブレーキバランスアジャスターを装着し、インストルメントパネルを取り付ける準備を行う。

今号のパーツ

① トップボディ(後A)
ABS製



② トップボディ(後B) ABS製



③ トップボディラベルA



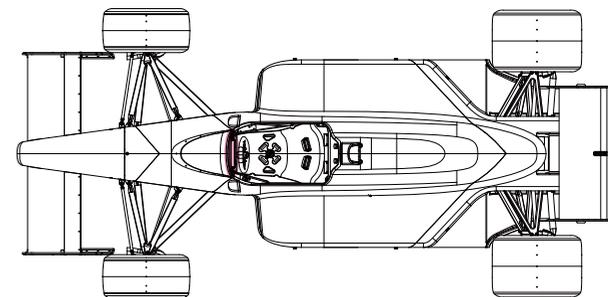
④ トップボディラベルB



※今号のパーツは、先の尖った危険な部分がありますので、ケガをしないよう取り扱いには十分お気を付けてください。

トップボディは実車では一体となっているが、特徴的なカラーリングを高いクオリティで再現するために、本モデルでは色分けのラインで分割している。また、ボディの形状やスポンサーラベル(後の号提供)も忠実に再現。トップボディやV字の箇所にはトップボディラベルAの色は、試作を繰り返してできた色となっている。

◀MP4/4のトップボディ



今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤・カッター・カッティングマット
- ・マスキングテープ・ピンセット・つまようじ・綿棒

用意するもの

- ・インストルメントパネル(後)(前)・ミクスチャー/ブーストコントロール ※64号で提供
- ・データレジストボタン(緑)(黒)・消火器ボタン・ブレーキバランスアジャスター・スイッチ(2P)・ラジオコントロールスイッチ・スイッチ(3P) ※64号で提供のランナーパーツ
- ・データディスプレイ・レブカウンターディスプレイ ※65号で提供のランナーパーツ
- ・メインボディ ※65号で組み立て
- ・インストルメントパネルラベル ※66号で使用

ポイント

小さなパーツを切り離す方法

- ランナーパーツから小さいパーツを切り離す時には、裏返したランナーパーツを写真のようにマスキングテープに貼った状態で行うと、紛失を防ぐことができる。その際、一度に全部切り離さず、使用するたびにパーツを切り離すとよい。また、ブレーキバランスアジャスターのラベル貼りは、ランナーから切り離す前に行くと作業がしやすい。

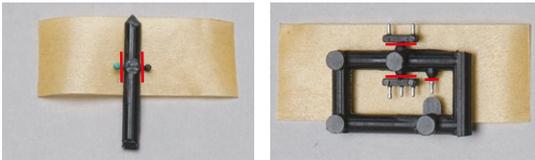


1 インstrumentパネル(後)に各パーツを取り付ける

● 64号で提供されたインストルメントパネル(後)(前)、データレジストボタン(緑)(黒)、消火器ボタン、ブレーキバランスアジャスター、スイッチ(2P)、ラジオコントロールスイッチ、スイッチ(3P)、ミクスチャー/ブーストコントロールと、66号で使用したインストルメントパネルラベルを用意する。



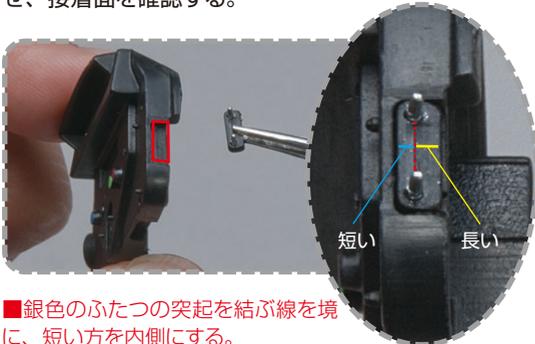
● データレジストボタン(緑)(黒)と、スイッチ(2P)、ラジオコントロールスイッチ、スイッチ(3P)のそれぞれのランナーパーツを裏返し、ポイントを参照しながら赤線部分をカットして、ランナーから各パーツを切り離す。



■ 紛失防止のため、作業するたびにひとつずつ切り離す。

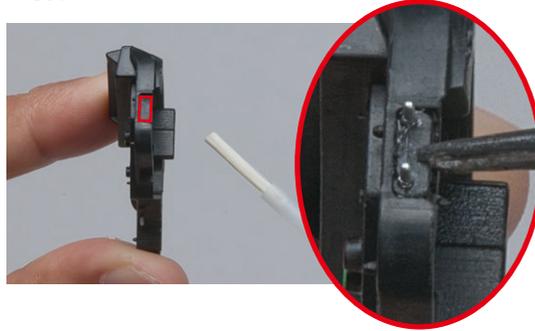
《仮組み》

インストルメントパネル(後)の右側面の赤枠で示した部分に、スイッチ(2P)を写真のような向きで組み合わせ、接着面を確認する。

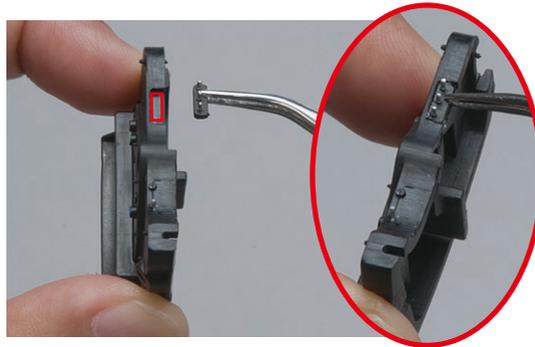


■ 銀色のふたつの突起を結び線を境に、短い方を内側にする。

● インストルメントパネル(後)の接着面となる赤枠で示した凹みに、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を少量塗り、仮組みしたようにパーツを合わせて、2～3分押さえる。

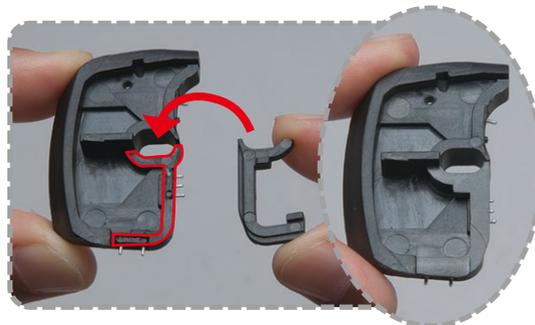


● 同様に、インストルメントパネル(後)の下側の赤枠で示した部分に、スイッチ(3P)を接着する。



《仮組み》

インストルメントパネル(後)の裏面の赤枠で示した部分に、インストルメントパネル(前)を組み合わせ、接着面を確認する。



● インストルメントパネル(後)の赤枠で示した接着面に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたように組み合わせ、2～3分押さえる。



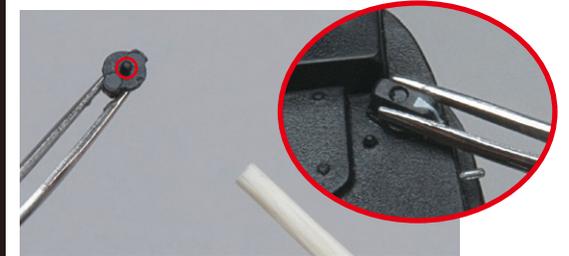
《仮組み》

インストルメントパネル(後)の赤丸で示した凹みに、ミクスチャー/ブーストコントロールのひとつを組み合わせ、接着面を確認する。



■ ここに取り付けることで、ブーストコントロールになる。

● ブーストコントロールの赤丸で示した突起の付け根に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を少量塗り、仮組みしたように組み合わせ、2～3分押さえる。



■ ブーストコントロールの取り付け向きは、12ページの実車写真(黄色い矢印)を参考にする。

● 同様に、インストルメントパネル(後)の左側、青い矢印で示した部分にミクスチャー / ブーストコントロールの残りのひとつを取り付ける。ここに取り付けることで、ミクスチャーになる。



■ミクスチャーの取り付け向きは、実車写真(青い矢印)を参考にする。

● インストルメントパネル(後)の赤丸で示した凹みに、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤をつまようじの先で少量塗り、データレジストボタン(緑)を組み合わせ、2~3分押さえる。



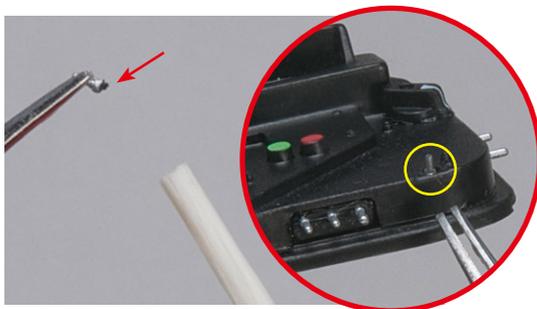
● 同様に、インストルメントパネル(後)の赤矢印で示した凹みにデータレジストボタン(黒)を取り付ける。



● 同様に、インストルメントパネル(後)の赤矢印で示した部分に消火器ボタンを取り付ける。



● ラジオコントロールスイッチの赤矢印で示した先に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を少量塗り、黄色い丸で示した部分に組み合わせ、2~3分押さえる。



● 実車の写真を参考にしながら、インストルメントパネル(後)にインストルメントパネルラベルの⑤から⑮を貼っていく。



■切り抜き方は、66号の組み立てガイドを参照。

● ブレーキバランスアジャスターに貼る⑩は、白い囲みを残さないように切り抜いて貼る。



● インストルメントパネル(後)に各パーツとラベルが取り付けられ、ブレーキバランスアジャスターにラベルを貼った。



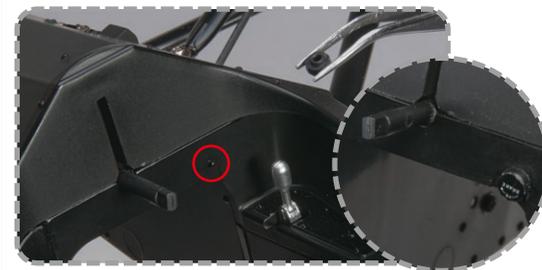
2 メインボディにブレーキバランスアジャスターを取り付ける

● 65号で組み立てたメインボディを用意する。



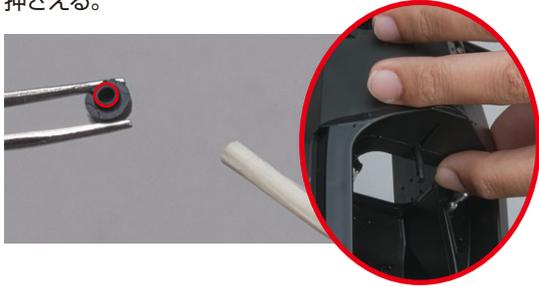
《仮組み》

ラベルを貼ったブレーキバランスアジャスターをランナーから切り離し、メインボディの赤丸で示した突起に組み合わせ、接着面を確認する。



■ブレーキバランスアジャスターの取り付け向きは、実車写真の⑩を参考にする。

- ブレーキバランスアジャスターの赤丸で示した穴の周りに、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにメインボディに組み合わせ、2~3分押さえる。



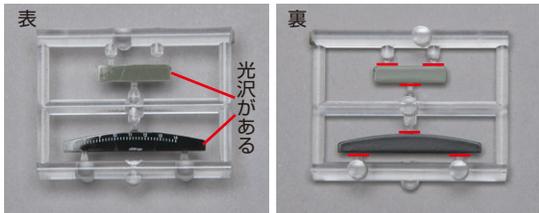
- メインボディにブレーキバランスアジャスターが取り付けられた。



3

インストルメントパネル(後)に、データディスプレイとレブカウンターディスプレイを取り付ける

- 65号で提供されたランナーパーツのデータディスプレイとレブカウンターディスプレイを用意し、裏側から赤線部分をカットする。



- GPPSは割れやすいので、カッターで少しずつ切れ目を入れるようにして切る。

《仮組み》

インストルメントパネル(後)の赤枠で示した部分に、レブカウンターディスプレイを組み合わせるので接着面を確認する。



- レブカウンターディスプレイは、光沢のない面が接着面となる。

- インストルメントパネル(後)の接着面の赤で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、確認したようにレブカウンターディスプレイを組み合わせ、表面に傷がつかないように綿棒などの先で1分ほど押さえる。



- 同様に、インストルメントパネル(後)の赤矢印で示した部分に、データディスプレイを接着する。



- データディスプレイは、光沢のない面が接着面となる。

- インストルメントパネルができた。



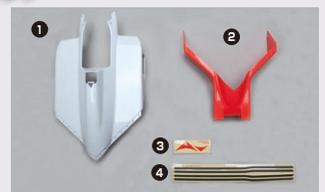
今号の完成

今号は、インストルメントパネル(後)に各パーツ、ラベルを取り付け、インストルメントパネルができたほか、メインボディにブレーキバランスアジャスターを取り付けた。



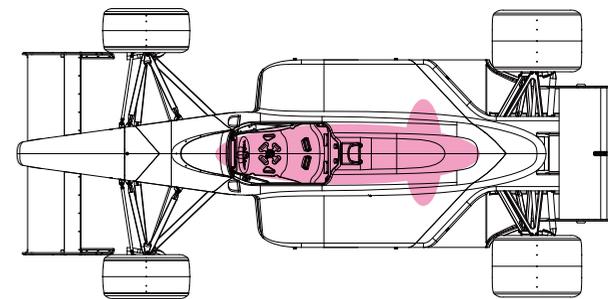
保管パーツ

今号で提供され、使用しなかったすべてのパーツは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



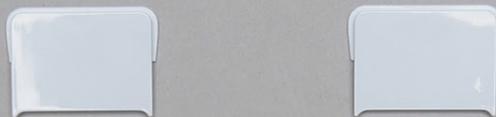
Mission 68 エレクトリックシステムを取り付ける

今号は、まずインストルメントパネルとエレクトリックシステムパーツAをひとつのユニットにする。次にメインボディにインストルメントパネル、エレクトリックシステムパーツAとB、CDIユニット、テレメーターユニットを取り付け、それぞれに接続されたワイヤーを結束し、メインボディの各所に固定する。



今号のパーツ

① アウトレットパネル×2 **ABS製**



② アウトレットダクト(上左) **ABS製**



③ アウトレットダクト(上右) **ABS製**



④ アウトレットダクト(下左) **ABS製**



⑤ アウトレットダクト(下右) **ABS製**



マシンのセッティングに関わるアウトレットパネルの形状は、マクラーレン社に残るメカニックデータと当時の写真から日本GP仕様のサイズを再現。また、アウトレットダクトは、内部構造まで作り込むことで、完成後もトップボディを外した際に鑑賞できるようになっている。

◀MP4/4のアウトレットダクト

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤・カッター・カッティングマット
- ・マスキングテープ・ピンセット・つまようじ・綿棒

用意するもの

- ・ラインラベルB ※55号で使用
- ・エレクトリックシステムパーツA、B・CDIユニット・テレメーターユニット ※66号で組み立て
- ・シート・ワイヤーE ※66号で提供
- ・コネクター ※66号で使用するランナーパーツ
- ・ワイヤーC ※66号で使用
- ・メインボディ・インストルメントパネル ※67号で組み立て

ポイント

ワイヤー類の結束と固定

●ワイヤー類の結束やボディへの固定は、ラインラベルBを使用するが、使用する箇所に厳密な指定はなく、組み立てやすさを考慮して、必要最低限にとどめている。完全に固定する場合には、瞬間接着剤を使用する方法もあるが、つけすぎると白化現象が起きるため、細心の注意が必要だ。また、ラベルは貼り直しをすると粘着力が落ちるので、その場合は新たにカットしたラベルを用いる。

結束



固定



1 インストルメントパネルにワイヤーEを接続し、エレクトリックシステムパーツAのワイヤーと結束する

● 55号で使用したラインラベルB、66号で組み立てたエレクトリックシステムパーツA、使用したランナーパーツのコネクター、提供されたワイヤーE、67号で組み立てたインストルメントパネルを用意する。

● ランナーからコネクターを1個切り離し、ゲート処理をしておく。ワイヤーEは、長さ①125ミリと②100ミリにカットする。ラインラベルBは、2ミリ幅で長さ10ミリのものを3本用意する。

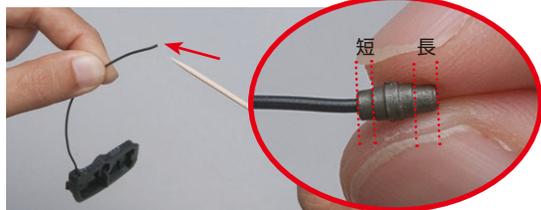


● ワイヤーE①の一端に、赤で示した3ミリ程度、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、赤矢印で示したインストルメントパネルの溝に差し込み、1分ほど押さえる。

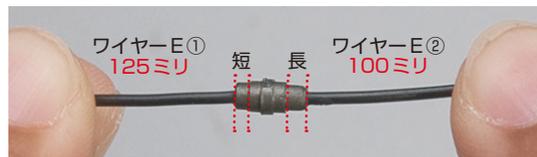


■瞬間接着剤は、インストルメントパネルの溝に接する部分にのみ塗る。

● インストルメントパネルに接着したワイヤーE①の反対側の端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、コネクターの短い方の穴に差し込み、1分ほど押さえる。



● ワイヤーE②の一端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、ワイヤーE①に取り付けたコネクターの反対側の穴に差し込み、1分ほど押さえる。



● コネクターに取り付けたワイヤーE②の反対側の端と、エレクトリックシステムパーツAの一番長いワイヤーの端を合わせ(青い丸)、赤矢印で示したコネクターの先、端から165ミリ、185ミリの部分の3カ所を、用意したラインラベルBで結束する。



2 メインボディにシートとエレクトリックシステムパーツA、インストルメントパネルを取り付け、ワイヤーを固定する

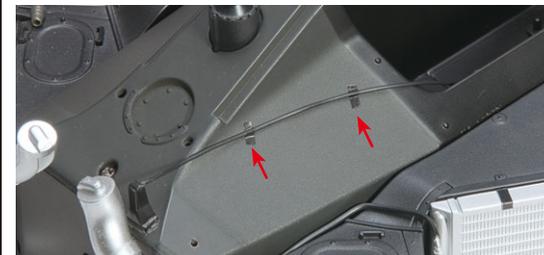
● 66号で提供されたシート、使用したワイヤーC、67号で組み立てたメインボディを用意する。



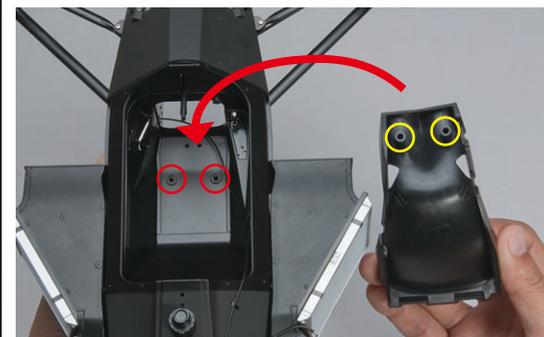
● 200ミリの長さのカットしたワイヤーCの片方の端に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、赤矢印で示したメインボディ右後方のスロットルケーブルブラケットの穴に差し込み、1分ほど押さえる。



● スロットルケーブルブラケットに接続したワイヤーCを写真のように配置し、赤矢印で示した2カ所を、2ミリ幅×5ミリのラインラベルBを2本用意して、それぞれ固定し、端をコックピット内に導く。



● メインボディの赤丸で示した2つの突起と、シートの黄色い丸で示した2つの穴を組み合わせるので確認する。

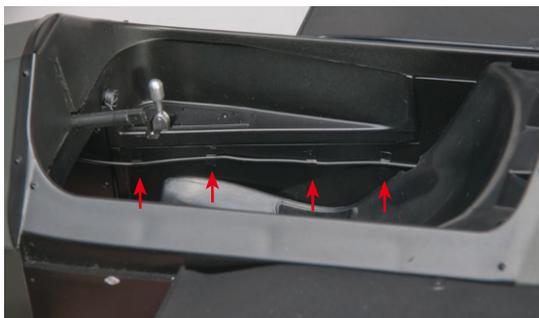


■シートは完成後も着脱可能なので、固定はしない。

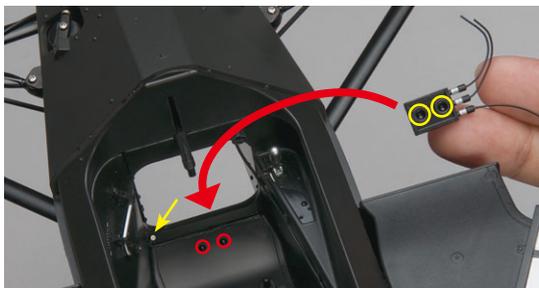
● コックピット内に引き込まれたワイヤーCを、黄色い矢印で示した部分からシートの下に導き、その先を赤矢印で示したシートの切り欠き部分から前方へ引き出し、シートをセットする。



- シートの切り欠き部分から出たワイヤーCを前方へ水平にのばし、赤矢印で示した4カ所を、2ミリ幅×5ミリにカットしたラインラベルB4本で固定する。



- シートを取り外し、メインボディの赤丸で示した2つの突起と、エレクトリックシステムパーツAの黄色い丸で示した2つの穴を組み合わせることで確認し、エレクトリックシステムパーツAに接続した2本の短いワイヤーをメインボディの黄色い矢印で示した穴に通す。

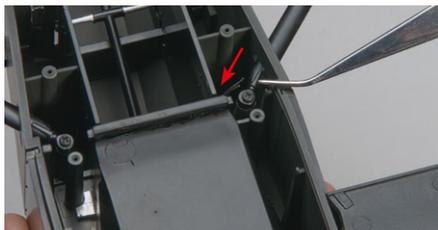


- エレクトリックシステムパーツAの赤で示した4カ所に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、確認したようにメインボディに合わせて、1分ほど押さえる。



- エレクトリックシステムパーツAを押さえる時は、メインボディの下側からも押さえる。

- 穴に通した2本の短いワイヤーは、写真のように赤矢印で示した側面によけておく。



《仮組み》

- メインボディの青い矢印で示した溝と、インストルメントパネルの赤丸で示した細長い突起を組み合わせることで確認する。

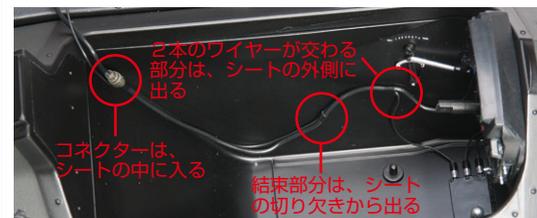


- 赤線で示した溝の部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにインストルメントパネルを組み合わせ、2~3分押さえる。



- 押さえる時は、インストルメントパネルに取り付けたパーツやラベルなどに注意する。

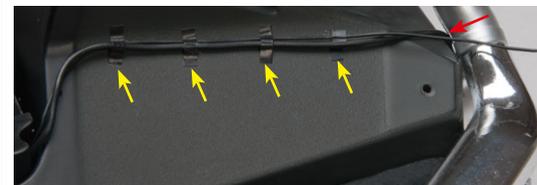
- インストルメントパネルとエレクトリックシステムパーツAから伸びるワイヤーを結束位置やコネクタを目安に、写真のように大まかに整える。



- 再びシートをセットして、赤矢印で示した切り欠きに合わせて、ワイヤーの形を整える。



- シートの背の部分から出た2本のワイヤーは、黄色い矢印で示した4カ所を、2ミリ幅×7ミリのラインラベルB4本で固定する。太いワイヤーは赤矢印で示したようにモノコックに沿って、下方へ立ち消えにする。細いワイヤーは、後の号でエンジンに取り付けられたワイヤーと接続するので、写真のように後方へ伸ばしておく。



3

メインボディにエレクトリックシステムパーツB、CDIユニット、テレメーターユニットを取り付ける

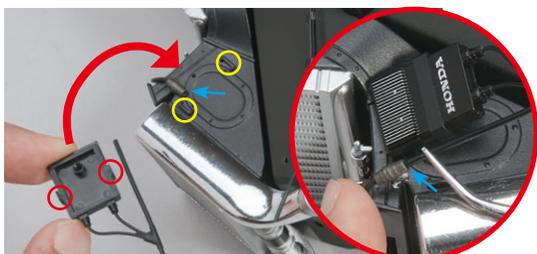
- 66号で組み立てたエレクトリックシステムパーツB、CDIユニット、テレメーターユニットを用意する。



● CDIユニットに取り付けたバッテリーケーブルの赤矢印で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗る。



● メインボディの左側面後方、青い矢印で示したコネクタに、瞬間接着剤を塗ったバッテリーケーブルを差し込み、1分ほど押さえる。次に、メインボディの黄色い丸で示した2カ所と、CDIユニットの赤丸で示した2カ所を組み合わせるので確認しておく。



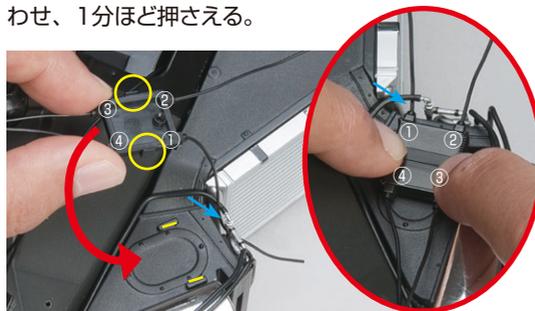
● メインボディの接着面となる黄色で示した2カ所に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、確認したようにCDIユニットを組み合わせて、1分ほど押さえる。



● バッテリーケーブルの端は赤矢印で示したように、後方に立ち消えるようにする。



● テレメーターユニットに取り付けた一番長いワイヤー①を、メインボディの青い矢印で示した部分に通してから、メインボディの黄色で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、テレメーターユニットの黄色い丸で示した部分を写真のように組み合わせ、1分ほど押さえる。

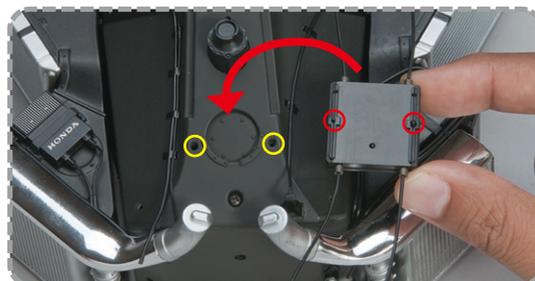


● テレメーターユニットの前方のワイヤー①②を写真のように右に取り回し、③のワイヤーと組み合わせ、④のワイヤーはもともとあったワイヤーと組み合わせ、それぞれ赤矢印で示した4カ所を1ミリ幅×15ミリのラインラベルBで写真のように結束する。



《仮組み》

エレクトリックシステムパーツBの赤丸で示した2カ所と、メインボディの黄色い丸で示した2カ所を組み合わせるので確認する。



● エレクトリックシステムパーツBの赤で示した部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにメインボディに組み合わせ、2~3分押さえる。(黄色い部分には塗らない)



● 後方の2本のワイヤーはそのまま下方へ立ち消えにする。前方の2本のワイヤーは、左側を下にして交差させ、そのまま後方へ取り回し、後の号でそれぞれエンジンに接続する。



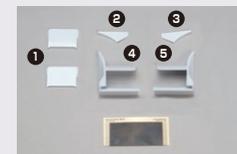
今号の完成

今号は、メインボディにインストールメントパネル、エレクトリックシステムパーツAとB、CDIユニット、テレメーターユニットを取り付け、それぞれに接続されたワイヤーを結束し、固定した。



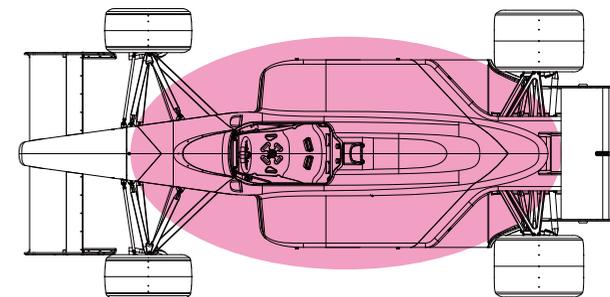
保管パーツ

今号で使用しなかった今号提供のすべてのパーツとラインラベルBは、残りの号で使用するので大切に保管しておこう。



Mission 69 トップボディを組み立てる

今号は、まず3つのパーツに分かれているトップボディをひとつに組み立て、ギアボックスオイルクーラダクトやアウトレットダクト、左右のサイドミラーをトップボディに取り付けるほかに、テールライトを組み立てる。また、キルスイッチをリアロールフープ(上)に装着する。



今号のパーツ

① トップボディ(前) ABS製



② リアロールフープ(上) ABS製



③ キルスイッチ ABS製



④ サイドミラー(右) ABS製



⑤ サイドミラー(左) ABS製



⑧ ギアボックスオイルクーラダクト ABS製



⑥ ミラープレート×2 ABS製



⑨ テールライト ABS製



⑦ ミラーラベル



⑩ プレートラベル



今号で使用する道具

- ・ABS用接着剤 ・瞬間接着剤
- ・カッター ・はさみ ・カッティングマット
- ・マスキングテープ ・ピンセット ・つまようじ

用意するもの

- ・トップボディ(後A)(後B) ※67号で提供
- ・トップボディラベルA、B ※67号で提供
- ・アウトレットダクト(上左)(上右)(下左)(下右) ※68号で提供

ポイント

ABS用接着剤の補修について

●ABS用接着剤を使用して接着したボディに部分的な接着不足がある場合は、裏面から瞬間接着剤をつまようじの先で少量流し込み、1分間押さえて補修するとよい。



キルスイッチは、レース中にアクシデントが発生した際に、外部からマシンのエンジンを止めるためのスイッチで、レース車両には装備が義務づけられている。繊細なパーツだが、1/8のビクスケールにより、本モデルで再現することができた。また、リアロールフープのドライバー名やスポンサー表記は、取材写真より忠実にトレースし、ディテールを当時のマシンの状態に近づけている。

◀MP4/4のキルスイッチとリアロールフープ

In Focus

1 トップボディを組み立てる

● 67号で提供されたトップボディ（後A）（後B）、トップボディラベルA、Bを用意する。

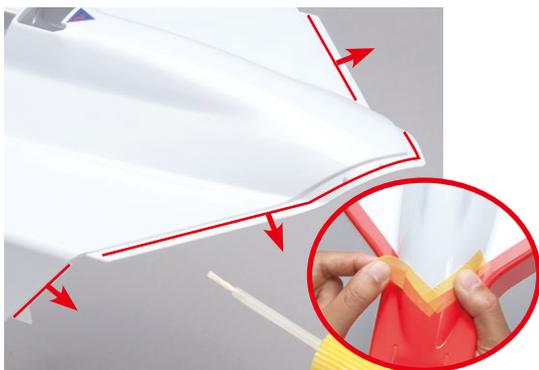


《仮組み》

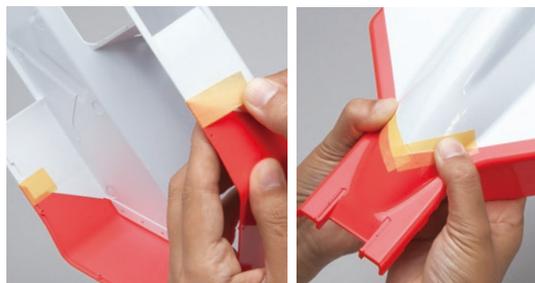
トップボディ（後A）と（後B）を写真のように組み合わせ、接着面を確認し、5センチほどにカットしたマスキングテープを4枚用意する。



● ABS用接着剤は赤線で示したようにトップボディ（後A）の上面は穴から外側に、側面（左右ともに）は角にたまらないように塗り、仮組みしたように（後B）を組み合わせ、すぐに中央部分に写真のようにマスキングテープを2枚貼る。



● 残りの2枚のマスキングテープはそれぞれ左右の側面の端をぴったり合わせるように貼り、すぐに中央部を3分以上押さえる。



《仮組み》

トップボディ（後A）の先端に、①トップボディ（前）を組み合わせ、接着面を確認し、5センチほどにカットしたマスキングテープを2枚用意する。

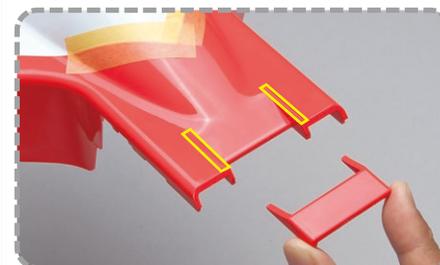


● トップボディ（後）の青枠で示した部分（左右ともに）に、ABS用接着剤を塗り、仮組みしたようにトップボディ（前）を合わせて3分以上押さえた後に、用意したマスキングテープを写真のように貼る。

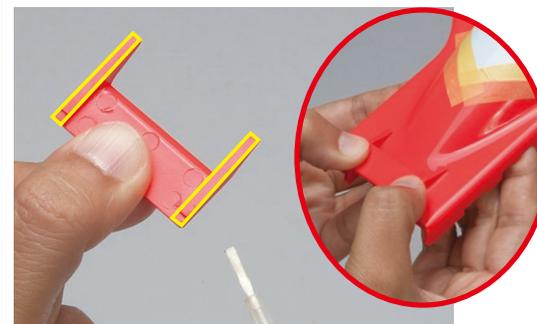


《仮組み》

トップボディ（後B）の後方、黄色い枠で示した部分に、②ギアボックスオイルクーラーダクトを組み合わせて、接着面を確認し、10センチほどにカットしたマスキングテープを1枚用意する。



● ギアボックスオイルクーラーダクトの黄色い枠で示した接着面に、ABS用接着剤を塗り、仮組みしたようにトップボディ（後B）に組み合わせ、3分以上押さえる。



● 用意したマスキングテープを写真のように貼り、1時間程度置き、完全に接着したことを確認したら、すべてのマスキングテープをはがす。



■部分的に接着不良がある場合は、ポイントを参考にしながら補修する。

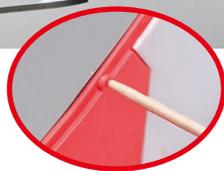
● トップボディラベルBの②③を、番号を残すようにして形通りに剥離紙ごと切り抜き、番号とは反対側の剥離紙を少しはがして、トップボディの左側面、後方下部の形に合わせ、そのまま剥離紙を剥がしながら、ボディの下側に合わせるようにして貼っていく。最後にボディの端の部分(赤点線)でカットする。



● 同様にして、トップボディラベルBの④⑤を、トップボディ右側面下部に貼る。両側面貼り終わったら、トップボディラベルBでふさがったアンダーパネル取り付け穴(6カ所)をつまようじの先で穴を開ける。



■ 裏側から少し穴を開けて場所が分かるようにしてから、表側から穴を広げるとよい。



● トップボディラベルA①②③も形通りに切り取り、①はトップボディの前方、黄色い枠で示した部分、②はトップボディの後方、青い枠で示した部分に貼る。



2

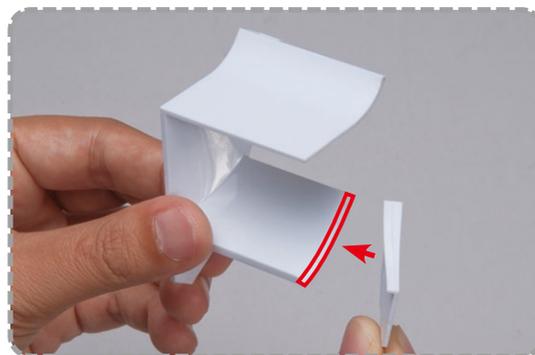
トップボディにアウトレットダクトを取り付ける

● 68号で提供されたアウトレットダクト(上左)(上右)(下左)(下右)を用意する。



《仮組み》

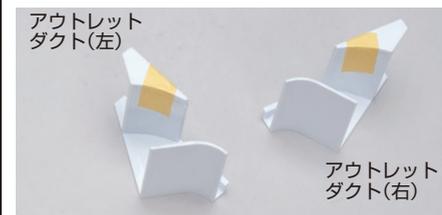
アウトレットダクト(下左)の赤枠で示した部分に(上左)を組み合わせ、接着面を確認し、3センチほどにカットしたマスキングテープを2枚用意する。



● アウトレットダクト(下左)の接着面にABS用接着剤を塗り、仮組みしたように(上左)を組み合わせて、3分以上押さえる。

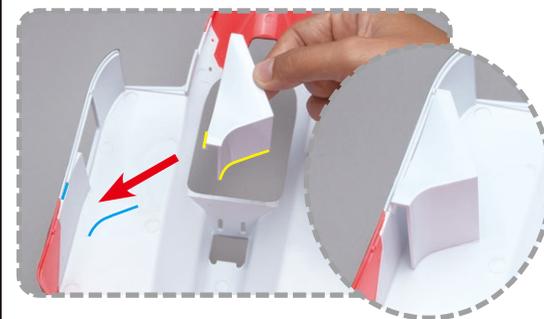


● 接着したアウトレットダクト(下左)(上左)に用意したマスキングテープを写真のように貼る。同様に、アウトレットダクト(下右)(上右)を接着し、マスキングテープを貼る。1時間ほど置いて、完全に接着したことを確認したら、マスキングテープをはがす。アウトレットダクト(左)(右)ができた。

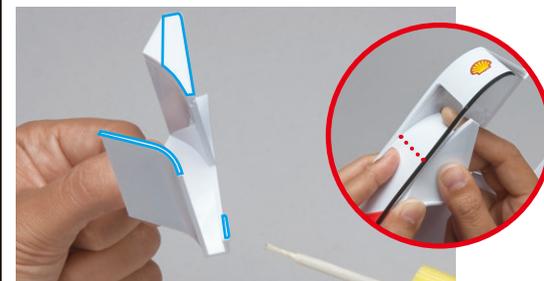


《仮組み》

トップボディの青い線で示した2カ所にアウトレットダクト(左)の黄色い線で示した2カ所を合わせるようにしながら組み合わせ、接着面を確認する。



● アウトレットダクト(左)の青枠で示した接着面3カ所にABS用接着剤を塗り、仮組みしたようにトップボディに組み合わせ、赤い点線で示したパーツの合わせ目につき間ができないように注意しながら3分以上押さえる。



●同様に、アウトレットダクト(右)をトップボディに接着する。



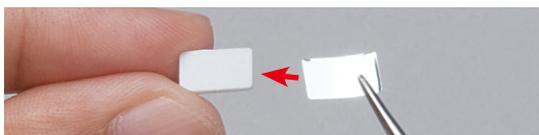
3

テールライトにプレートラベルを貼り、組み立てたミラーをトップボディに取り付ける

●⑩プレートラベルの⑳を黒い線の部分から切り取り、㉑テールライトの赤矢印で示した突起に貼る。



●⑥ミラープレート×2の表面に、それぞれ⑦ミラーラベルを貼る。



■ミラープレートは平らな面が表となる。

●⑤サイドミラー(左)の内側の黄色で示した2カ所に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、ミラーラベルを貼った面を上にしてミラープレートをはめ込み、綿棒など柔らかいもので1分ほど押さえる。



《仮組み》

トップボディの青い丸で示した部分に、サイドミラー(左)を組み合わせ、向きと接着面を確認する。



●サイドミラー(左)の赤矢印で示した突起の付け根に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにトップボディに組み合わせ1分ほど押さえる。



●同様に、④サイドミラー(右)にミラープレートを接着し、トップボディに取り付ける。



4

リアロールフープ(上)にキルスイッチを取り付ける

《仮組み》

②リアロールフープ(上)の赤矢印で示した溝に③キルスイッチを取り付けるので、接着面を確認する。



●キルスイッチの接着面に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにリアロールフープ(上)に組み合わせ、1分ほど押さえる。



■キルスイッチの取り付け角度が写真のようになっていることを確認する。

今号の完成

今号はトップボディを組み立てたほか、テールライトにプレートラベルを貼り、リアロールフープ(上)にキルスイッチを取り付けた。



保管パーツ

プレートラベルの残りは、最終号で使用するまで、大切に保管しておこう。



Mission 70 モデルの完成

今号で、いよいよモデルが完成する。まず、アンテナやアウトレットパネルの取り付けや、ロゴをトップボディに貼り付けて、ディテールを再現する。次に、各ユニットを順番に組み合わせて1つに組み上げていく。本モデルは、完成後に各ユニットを組み立てた順番と逆に取り外していくと、内部構造を鑑賞することができる。

今号のパーツ

- ① ウィンドシールド GPPS



ランナーパーツ

- ② エアーバルブ×4 GPPS
- ③ アンテナ (右H) GPPS
- ④ アンテナ (左H) GPPS



- ⑤ トップボディワッシャー×9



- ⑥ フィラーカバーパネル GPPS



- ⑦ リアロールフープ(右下) GPPS



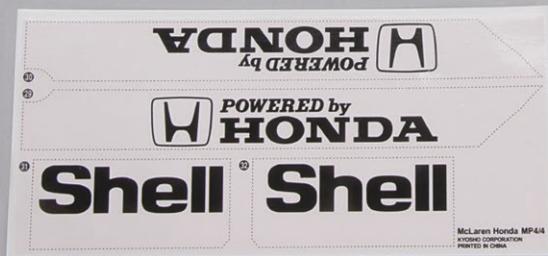
- ⑧ リアロールフープ(左下) GPPS



- ⑨ テールライトレンズ GPPS



- ⑩ トップボディデカール



- ⑪ ビスJ (1.4×6 P-M BK)×3



- ⑫ ビスN (1.4×4P-M BK)×4



- ⑬ ビスT (1.0×6P-M SiL)×11



※ビスは予備1本を含む

※ GPPSは透明なスチロール樹脂を使用。⑤はHIPS (スチロール樹脂)製

用意するもの

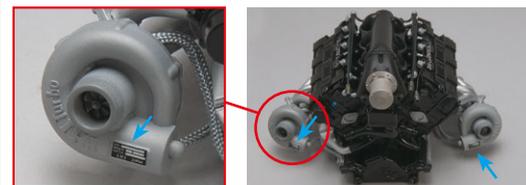
- ・フロントタイヤ×2 ※2号、29号で組み立て
- ・リアタイヤ×2 ※14号、46号で組み立て
- ・フロントウイング ※6号で組み立て
- ・リアウイング ※6号で組み立て
- ・ホイールナット×4 ※14号で組み立て
- ・フロントアンダーボディ ※26号で組み立て
- ・ギアリンクージ ※34号で提供
- ・ギアボックス ※55号で組み立て

- ・アンテナ(左S/右S) ※56号で提供
- ・ターボインレットダクト(左/右) ※64号で組み立て
- ・アンダーパネル(前/後) ※64号で取り外し
- ・モノコックボトムプレート(後) ※64号で取り外し
- ・エンジンマウントプレート(左/右) ※64号で取り外し
- ・シートベルト ※65号で組み立て
- ・5ミリ幅両面テープ ※65号で使用
- ・エンジンブロック ※66号で組み立て
- ・ステアリング ※66号で組み立て
- ・クリアワイヤー ※66号で提供

- ・アウトレットパネル×2 ※68号で提供
- ・ラインラベルB ※68号で使用
- ・メインボディ(シート付き) ※68号で組み立て
- ・トップボディ ※69号で組み立て
- ・テールライト ※69号で組み立て
- ・リアロールフープ(上) ※69号で組み立て
- ・プレートラベル ※69号で使用
- ・ビスA×2 ・ビスF×2 ・ビスG×5
- ・ビスH×2 ・ビスJ×7 ・ビスK×2
- ・ビスL×2 ・ビスN×4 ・ビスP×2

1 各パーツを組み立てる

- 69号で使用したプレートラベルを用意し、⑫を2枚切り抜き、66号で組み立てたエンジンブロックに取り付けた左右のターボチャージャーの青矢印で示した部分にそれぞれ貼る。



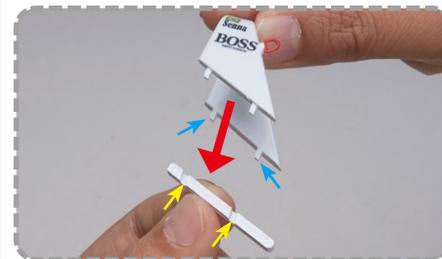
- プレートラベルの⑮または⑯を、68号で組み立てたメインボディの、シートベルトフックの左右の取り付け穴を結ぶ赤点線と、モノコックパーテーションの中央を結ぶ赤線の交差する部分に貼る。



- プレートラベル⑮は日本GPでセナが決勝で使用したシャーシナンバー2番、⑯は予選で使用した5番の刻印を再現している。どちらを使用してもよい。

《仮組み》

- 69号で組み立てたリアロールフープ(上)を用意し、リアロールフープ(上)の青矢印で示した突起を、⑦リアロールフープ(右下)の黄色い矢印で示した溝に組み合わせるので確認する。



- 接着面となるリアロールフープ(上)の赤枠で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにリアロールフープ(右下)を組み合わせて、1分ほど押さえる。



- 同様にして、リアロールフープ(上)にBリアロールフープ(左下)を取り付ける。リアロールフープができた。

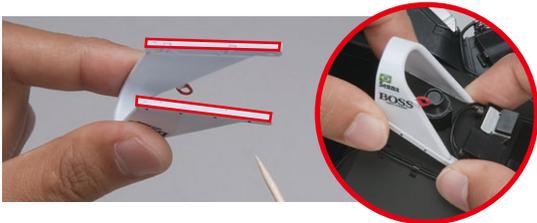


《仮組み》

メインボディ後方の赤枠で示した部分にリアロールフープを取り付けるので確認する。



- リアロールフープの赤枠で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにメインボディに組み合わせて、1分ほど押さえる。メインボディにリアロールフープが取り付けられた。

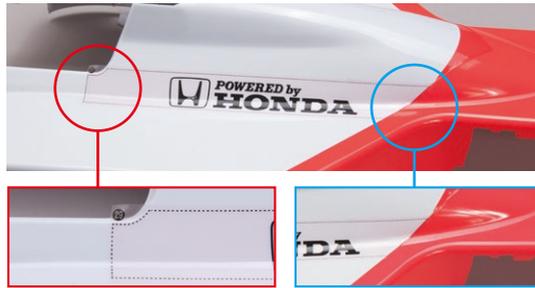


- ⑩トップボディデカールのうち⑳を点線と番号を残すように切り抜き、2分間以上、水の中に浸す。



■ 水に浸す時間が短いと粘着力が落ちるので、必ず2分以上浸す。

- ㉑を水から引き上げ、剥離紙からデカールをはがして、69号で組み立てたトップボディの左側面、写真の位置に貼り付ける。



- ティッシュペーパーなどを使用して、デカールがトップボディに密着するように中の空気を完全に押し出す。



- 不十分だとデカールが密着しない。また横に押すとデカールがずれ、文字が途切れてしまうので、必ず上から押さえる。

- トップボディデカールのうち㉒を、上と側面の点線を残して、下の点線は残さないよう切り抜き、同様にして、トップボディの左側面、写真の位置に貼る。



■ 青矢印で示した部分に合わせて。

- 同様の作業をして、トップボディデカールの㉓㉔をトップボディの右側面に貼る。6時間以上乾燥させた後に、ゆっくりとすべてのデカールの余白部分をはがす。



- デカール部分は傷が付きやすいので、触らないよう注意する。

《仮組み》

68号で提供されたアウトレットパネルを1枚、トップボディの左側面にあるアウトレットダクトの穴に合わせ、接着面を確認する。



- アウトレットパネルの赤枠で示した部分に、ABS用接着剤を塗り、仮組みしたようにトップボディに組み合わせ3分以上押さえる。同様にして、トップボディの右側面にもう1枚のアウトレットパネルを取り付ける。



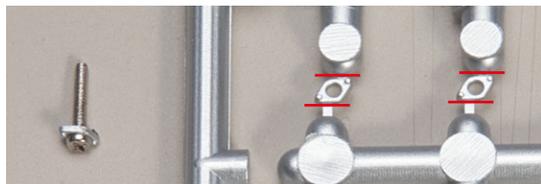
■ はみ出し防止のため、角に接着剤がたまらないよう注意する。トップボディの外側(青い点線部分)がぴったりと合うようにする。

- 65号で使用した5ミリ幅両面テープを長さ5ミリにカットし、トップボディ前方の青矢印で示した部分に貼り、①ウインドシールドを差し込み固定する。



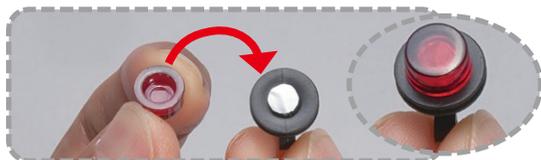
■瞬間接着剤を使用すると白化する恐れがあるので、必ず両面テープを使用して固定する。

- ⑤トップボディワッシャー8個をランナーから赤線部分で切り離し、⑬ビスTを差し込んでおく。

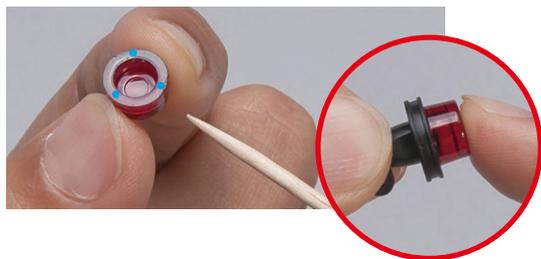


《仮組み》

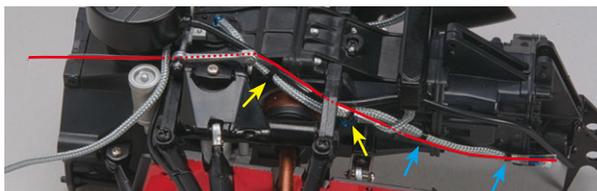
69号で組み立てたテールライトを用意し、⑨テールライトレンズを組み合わせて、接着面を確認する。



- テールライトレンズの接着面に、瞬間接着剤をつまようじの先で青点の部分に少量塗り、仮組みしたようにテールライトに組み合わせ、1分ほど押さえる。

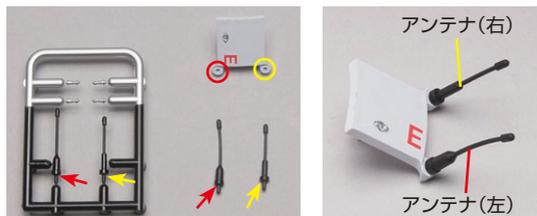


- 55号で組み立てたギアボックスと66号で提供のクリアワイヤー、68号で使用したラインラベルBを用意する。ギアボックスにクリアワイヤーを赤線で示したように通し(赤点線は下を通す)、ラインラベルBを1×15ミリにカットしたもの2本を青い矢印で示した部分、1×20ミリでカットしたもの2本を黄色い矢印で示した部分を、それぞれ結束する。



■青い矢印で示した部分はワイヤーとホースの2本、黄色い矢印で示した部分はワイヤーとホースの3本を結束する。

- 56号で提供されたアンテナ(左S)(右S)、または③アンテナ(右H)と④アンテナ(左H)の赤矢印と黄色い矢印で示した根元の部分に、瞬間接着剤を少量塗り、⑥フィルターカバーパネルの赤丸と黄色い丸で示した部分に写真のように組み合わせ、1分ほど押さえる。



■今号提供されたアンテナは硬質、56号で提供されたものは軟質で、どちらを使用しても良いが、軟質のものの方がユニットの組み立てや取り外しの際に破損しにくい。

《仮組み》

トップボディに取り付けたリアロールフープの内側、赤丸で示した部分と、フィルターカバーパネルの黄色い矢印で示した部分を組み合わせるので、接着面を確認する。



■リアロールフープの中に通す際は、フィルターカバーパネルをやや斜めに入れるとよい。

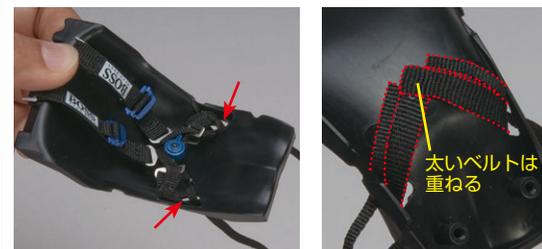
- トップボディの赤丸で示した穴それぞれに瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、仮組みしたようにフィルターカバーパネルを組み合わせ、1分ほど押さえる。



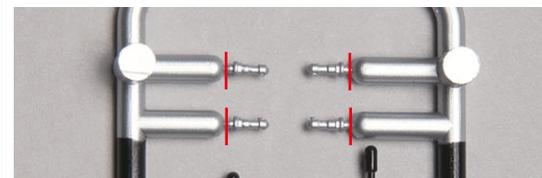
- 5ミリ幅両面テープを5×10ミリを2枚、3×10ミリを2枚カットしたものを用意し、65号で組み立てたシートベルトの赤矢印で示した部分に5×10ミリ、青い矢印で示した部分に3×10ミリを貼る。



- メインボディからシートを取り外し、赤矢印で示した両脇の穴に、両面テープを貼ったベルトをそれぞれ通し、シートの裏側で写真のように固定する。



- ②エアバルブ4個を赤線部分で切り離す。

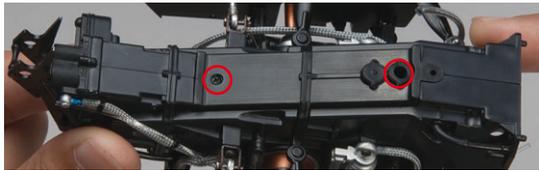


- エアバルブの赤矢印で示した部分に、瞬間接着剤をつまようじの先で少量塗り、2号、29号で組み立てたフロントタイヤ×2、14号、46号で組み立てたリアタイヤ×2のそれぞれホイールにある凹みに合わせて、1分ほど押さえる。

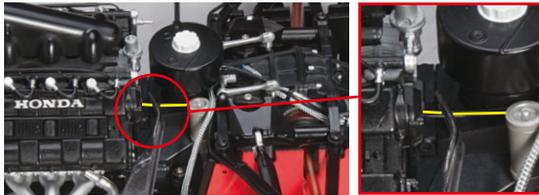


2 各ユニットを組み合わせる

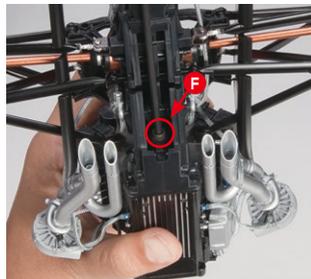
- ギアボックスを裏返し、赤丸で示したビスJ2本を外し、ギアボックス(下)を外す。



- ギアボックスの前方に66号で組み立てたエンジンブロックを組み合わせ、ギアボックスに取り付けたクリアワイヤー(黄色い線)の先を、エンジンブロック側に差し込み、立ち消えとする。

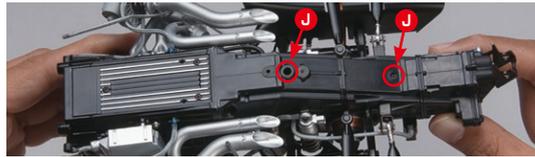


- 赤丸で示した部分にギアボックス側からビスFを差し込み、60号で提供された六角レンチで締めしていく。ビスの頭がパーツと接して、エンジンブロックとギアボックスがぴったり合ったところで締めるのをやめる。



■ビスの締めすぎに注意する。

- 外したギアボックス(下)を合わせて、赤丸で示した2カ所をビスJで締める。

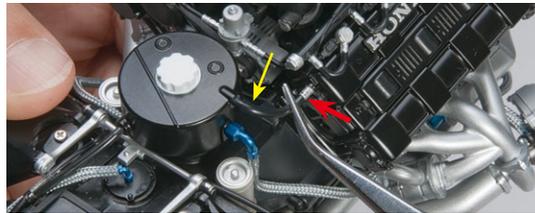


■ビスの締めすぎに注意する。

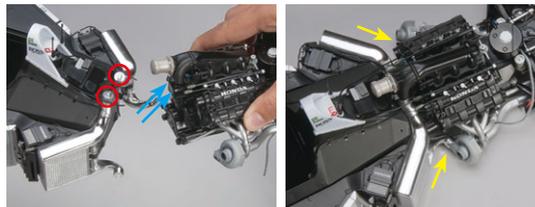
- エンジンオイルタンクに接続されたホースB(青矢印)の反対側の先を、水冷式オイルクーラーの青い突起(赤矢印)に差し込む。



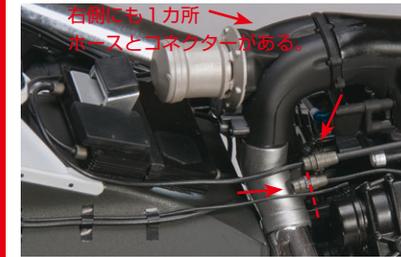
- エンジンオイルタンクに接続されたホースC(黄色い矢印)の反対側の先を、エンジンブロックの赤矢印で示した突起に差し込む。



- メインボディの赤丸で示したインタークーラーパイプとエンジンブロックの青い矢印で示したスロットルボディを組み合わせてから、左右のターボチャージャー(黄色い矢印)をインタークーラーに合わせ、平らな場所に置く。

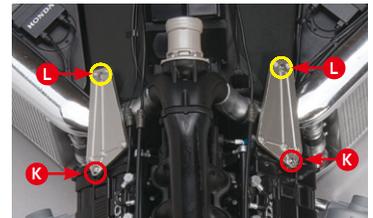


- モノコックから伸びる3本のホースを、エンジンブロックのコネクター(赤矢印)にそれぞれ差し込む。



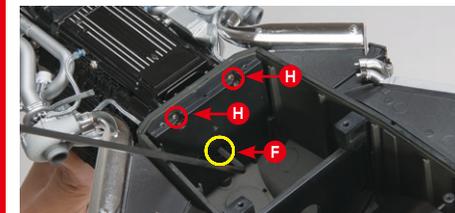
■最初に差し込む時だけ、ホースの長さをコネクターの一番太い部分(赤点線)でカットして調整する。

- 64号で外したエンジンマウントプレート(左)(右)を用意し、赤丸部分をビスK、黄色い丸部分をビスLで固定する。



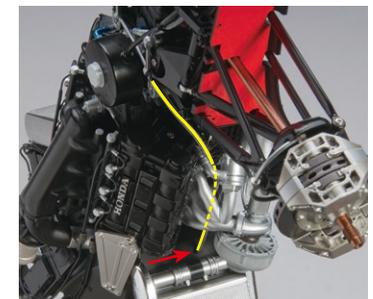
■ビスの締めすぎに注意する。

- 裏側に返し、赤丸で示した部分をモノコック側からビスHで固定する。さらに黄色い丸で示した部分にビスFを差し込み、指で回せなくなるところまで締め、その後、六角レンチで締める。

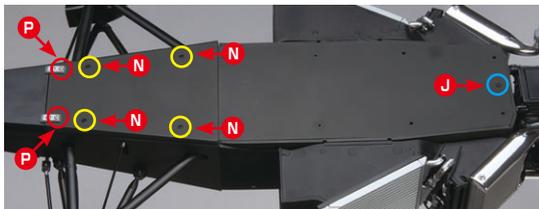


■ビスFは、締め付けの強度は必要ないため、六角レンチで締めて少しでも抵抗を感じたところでやめる。

- ギアボックスから伸びるホースBは、黄色い線で示した部分を通り(点線は下を通す)、赤矢印で示したモノコックの穴に引き込んでおく。



- 64号で外したモノコックボトムプレート(後)をモノコックにはめ込み、青丸部分をビスJで固定する。次に26号で組み立てたフロントアンダーボディをモノコックにはめ込み、赤丸部分をビスPで、黄色い丸部分をビスNで固定する。

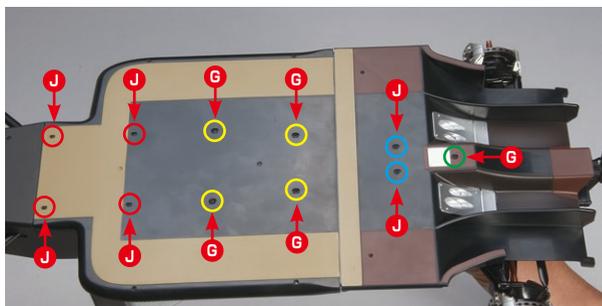


■ビスの締めすぎに注意する。

- 34号の「PIT IN」の図を参照しながら、34号で提供されたギアリンケージを取り付ける。



- 64号で外したアンダーパネル(前)を合わせて赤丸をビスJで、黄色い丸はビスGで締める。次にアンダーパネル(後)を合わせて、青丸をビスJで、緑色の丸はビスGで締める。ビスの締めすぎに注意する。



- 64号で組み立てたターボインレットダクト(左)(右)をそれぞれ配置して、ウェイトゲートにホースを接続する(赤矢印)。



- 赤矢印で示したアンテナに十分気をつけながら、トップボディを真っ直ぐかぶせる。

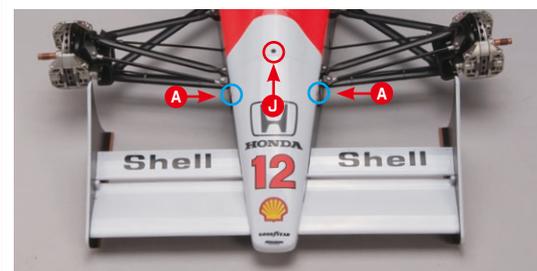


- トップボディ左右側後方はクォーターパネルとかみ合うこと(黄色い矢印)と、トップボディ上部後方の膨らんだ部分(青矢印)にはオイルクーラーが収まることを確認し、左右のクォーターパネルとトップボディをトップワッシャーを差し込んだビスTでそれぞれ固定する(黄色い丸)。ワッシャーの向きは締め終わる最後に調整する。トップボディ側面下部とアンダーパネルをトップボディワッシャーを差し込んだビスT(青丸)で、ボディ先端部の左右側面(緑色の丸)をビスTで固定する。



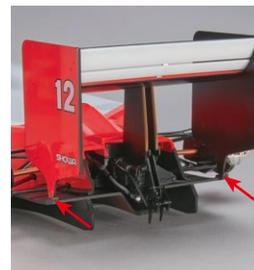
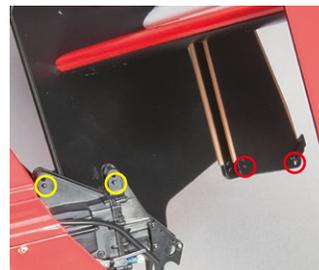
■ビスの締めすぎに注意しながら両側面を固定する。

- 6号で組み立てたフロントウイングを前方からノーズコーンに沿うように差し込み、上面の赤丸部分をビスJ、側面の青丸部分はビスAで固定する。

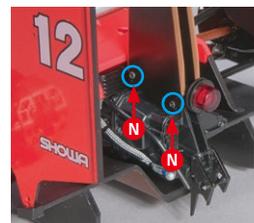
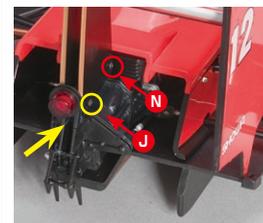


■ビスJはビスの頭がボディと同じ高さになったら締めるのをやめる。ビスの締めすぎに注意する。

- 6号で組み立てたリアウイングに取り付けたリアウイングステーの前後にある縦に2つ並んだ穴のうち、下の穴(赤丸)をギアボックス側の突起(黄色い丸)に組み合わせ、左右のリアウイング翼端板の下部をアンダーパネル(後)の穴に、それぞれ差し込む(赤矢印)。



- 右側奥の穴(赤丸)はビスNで固定し、黄色い矢印部分にテールライトを挟み、手前の穴(黄色い丸)をビスJで固定する。左側は青丸で示した2カ所をビスNで固定する。



■ビスを締める際には、2号で提供された柄の短いプラスドライバー(00番)を使用する。ビスの締めすぎに注意する。

- コックピットにシートをはめ込み、左右のシートベルトフックを、赤矢印で示した穴にそれぞれ差し込む。



- フロントを真っ直ぐにした状態で、コックピットのステアリングシャフトの先端に66号で組み立てたステアリングリングを真っ直ぐ差し込む。



- アクスルシャフトにそれぞれタイヤを差し込み、2号で提供されたブラスドライバー（00番）に付属のハンドルエンドを使用して、14号で組み立てたホイールナットで固定する。これで全ての作業は終了だ。



- 本モデルはディスプレイモデルなので、タイヤが動かない程度に締めておく。

McLaren
Honda MP4/4
1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR AYRTON SENNA Model

マクラーレンホンダ MP4/4
ついに完成！

モデルの完成

モデルが完成した。

1/8のビクスケールだからこそ再現できたディテールや質感などを楽しもう。保管については下記の注意を参考にしよう。



実車でも見ることができないアングルでエンジンブロックやギアボックスなどMP4/4のメカニズムを鑑賞しよう！

保管時の注意

保管場所について

- ・直射日光や照り返しなどの紫外線が当たる場所、高温や低温、急激な温度変化がある場合は避ける。
- ・湿度が高い場所、逆に低すぎる場所は避ける。
- ・発熱のあるライトを近づけて照らさない。

タイヤについて

- ・フロントタイヤを左右に動かす時は、ステアリング操作ではなく、必ず浮かせた状態でタイヤを持って行う。

デカールについて

- ・デカールが貼られた部分には触れないようにする。
- ・ホコリやゴミがついた場合には、カメラ機材用のブローなどで吹き飛ばしたり、柔らかい筆で取り除く。

タイヤのディテールアップ方法

本モデルのタイヤは新品を再現したのですが、半光沢クリア塗料の吹き付けや、トレッド(接地面)をやすりがけすることで、外観がレースコース上での実車の質感に近づきます。質感を出したい方は、下記の方法でディテールアップを行ってください。

半光沢のクリア塗料を吹き付ける

用意するもの

- ・ Mr.スーパークリアー半光沢
- ・ 新聞紙
- ・ 乾いた柔らかい布

- 1** 乾いた柔らかい布でタイヤを拭く。もし油分等が付着している場合は台所用洗剤で洗い落とし、十分乾かしておく。



- 2** 新聞紙を丸めてタイヤに通し、クリア塗料を吹き付けるための持ち手をつくる。



- 3** Mr.スーパークリアー半光沢に記載されている使用方法をよく読み、タイヤ全体に均一に吹き付ける(換気の十分な場所で行うこと)。



- 4** 写真のように、タイヤが周囲に付かないようにして乾燥させる。同様の作業手順で、4本のタイヤの質感を合わせる。



- 5** タイヤの光沢が全体的に抑えられ、ディテールアップした。



トレッド(接地面)をやすりがけする

用意するもの

- ・ 紙やすり(400番、600番、1000番)
- ・ はさみ
- ・ 木片
- ・ 両面テープ

- 1** 400番の紙やすりを適当な大きさに切り、両面テープで木片に貼る。



- 2** 矢印のようにタイヤの転がる方向に合わせて紙やすりをかけ、トレッドの真ん中にあるパーティングラインをすべて削る。



- 3** 600番の紙やすりに貼り替えてトレッド面全体を削る。
※紙やすりの動きはタイヤの転がる方向に合わせる。



- 4** 1000番の紙やすりは指で持ち、トレッド全体が均一になるように仕上げる。
※紙やすりの動きはタイヤの転がる方向に合わせる。



- 5** やすりがけが終わった状態。同様の作業手順で、4本のタイヤの仕上がり具合を合わせる。



- 6** パーティングラインが消え、トレッドが削られたことで、走行後の状態にディテールアップした。



ポイント

クリア塗料の吹き付けとトレッドのやすりがけを両方行う場合には、クリア塗料の吹き付けを先に行い、十分に乾燥させてからやすりがけを行うようにする。